

教材教具および題材	学部	授業名・集団名 (主たる教科領域)	執筆者
相手の気持ちを知ろう ～よりよい人間関係を築くために～	小	朝の会 4年 (自立活動)	

<ねらい>

- 相手の気持ちがわかり、行動を調整しようとする。

<内容(作成方法・使用方法・工夫点など)>

・A君の実態

以前は周りへの関心が薄かったが、関わりを深めていく中で今では教師や友達に自ら積極的に関わりに行くようになった。視線を合わせようとしたり、手をつなぎに行ったりと適切な関わりもできるが、急に相手の顔を触ったり、よくない行動をして気を引こうとしたりするような行動も見られる。障害特性から相手の表情が読み取りにくかったり善悪の判断や、大人の反応で誤学習している様子もある。

・B君の実態

人と関わりたい気持ちが強くなり、好きな友達の顔を見ると、かなりの至近距離で顔を近づけたり抱きついたりする。また、気を引こうとわざとよくない行動をして困らせようとする。

→朝の会などで、「こんなとき、どうする?」や「こんなとき、どんな気持ち?」をイラストカードや寸劇を示して考えられるようにする。声の抑揚や表情をつけてわかりやすく伝える。

まずは、教師や他の友達が考えを伝える等周りの意見を聞けるようにしてから自分自身の考えを伝えられるようにする。

“これは×”だけではなく、“なぜなのか”“どうしたらよいのか”を伝える。

→うまくいった関わりはその場できちんと誉めると同時に、朝の会やかえりの会等でもみんなに知らせ、頑張ったことを認め合う場を設定する。

<良かった点・改善点(児童生徒の反応を含め)>

- カードをみんなの見える所に置いておき、いつでもフィードバックできるようにした。自分が先生になりきってそのカードを使って友達に伝えようとしていた。
- 指導を受けると、その場ではやめるが、時間がたつとまた同じことを繰り返し、習得が難しい。

・自立活動の大事な視点を忘れずに

“主体的に取り組める” → やらせる、やらされる図式にならないように！少しでも生活が豊かになるための自立活動であったほしい

“できるところを更に伸ばしてできないところを補う”

→得意なことは? できるところからスタート!

“スモールステップ” → もっと細かな課題設定にする。まずは自分の気持ちを  
知る所から

<その他(材料、費用、購入先等)>

- 紙、マジック、色鉛筆



